

平成 23 年

第 2 回仙北市議会定例会

教 育 行 政 方 針

仙北市教育委員会

平成23年第2回仙北市議会の開会にあたり、平成23年度の教育行政方針を申し上げます。

◇ はじめに

仙北市誕生から満5年が経過したところでございますが、この間、教育環境の整備につきましては、角館統合小学校の建設事業をはじめ、神代小学校の建設事業、西明寺中学校グラウンドの建設事業、角館中学校の屋根及び外壁改修事業など大規模事業が順調に進捗しており、子どもたちの学ぶ環境の充実が図られているところでございます。

こうしたなか、本年度においては「学校教育の質の向上」をはじめとする諸課題に積極的に取り組むこととし、そのための事務局組織の改編を行うこととしたところでございます。

まず、本市学校教育を全面的に支え、さらなる教育の充実を図ってまいらるために、学校教育課を教育指導課と改め、その担当として学校現場の指導経験が豊富な教職員を充てることとしております。あわせて、教育に関する専門的事項の指導や、地域の文化や特性を教育に生かすための調査研究を行う教育機関として、仙北市北浦教育文化研究所を新たに設け、所長及び指導主事、さらには県から派遣される充て指導主事を配置することとし、本定例会に設置条例を提案させていただいております。とりわけ本市を中心とする北浦地域一帯は、豊かな伝統文化を有する地域でございます。確かな学力の定着はもとより、この地の文化に誇りを持ち、たくましく生きる子どもの育成を事務局と研究所、そして学校が一体となって推し進めてまいりたいと考えております。

また、市民スポーツの振興に向けては、その企画立案と施策の確実な推進を図るために、生涯学習課から社会体育部門を独立させたスポーツ振興課を新設し、幅広い世代の市民の皆様が楽しみながらスポーツ活動を実践できるよう、ソフト・ハード両面にわたる環境の整備と活動の支援に努めてまいります。

次に、現在、本市では「人生をより良く生きるための指針となる読書活動の推進」を生涯学習の大きな目標として掲げておりますが、本年度は、

子どもたちが読書に親しむ環境の整備充実に向けて、各学校図書室の図書のデータベース化を行い、市立図書館と学校図書室のネットワーク化を進めることとしております。児童・生徒の読書のみならず、自主的な「調べ学習」等にも活用できる体制を整備いたします。

さらに、昭和51年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された角館町の武家屋敷群一帯につきましては、保存計画に基づき修理修景事業、防災施設の設置事業等を行ってまいりましたが、樹木や防災施設等の老朽化、地区住民の高齢化や地区の観光化などに伴い、広範にわたる対策を効率的に講じてまいることが喫緊の課題とされており、23年度から防災計画の見直しに取り組むこととしております。

さて、この春は、市内7小学校から247名が卒業予定であります。中学校に進学する子どもたちのさらなる成長と飛躍を何よりも期待するものでございます。また5つの中学校からは272名が卒業予定であります。卒業するすべての生徒が希望する道を着実に歩むことができますよう祈っているところでございます。

次に各分野ごとの施策について申し上げます。

【教育総務】

教育施設の諸工事、維持修繕事業等につきましては、本年度も、各学校施設ごとの必要性や緊急性等を勘案しつつ、国の「きめ細かな交付金事業」等を活用のうえ、計画的に進めてまいります。

また、本年度は、ふるさと仙北市を知り、愛する心を育んでもらうために、市内小中学校全校の体育館に市民歌のパネルを掲示することとし、所要の予算を計上しているほか、遠距離通学児童対策として、桧木内小学校のスクールバスを更新することとしております。

【学校教育】

本年度の小中学校の新入学児童・生徒数につきましては、小学校200名（前年児童数216名）、中学校247名（前年生徒数254名）が予定さ

れており、昨年度と比較して小学校が16名、中学校が7名、それぞれ減少しております。

22年度からは中川小学校と白岩小学校で複式学級が発生しており、その対象学年につきましては、市費負担による非常勤講師（複式学級指導支援員）をそれぞれ1名ずつ配置し、複式授業の緩和を図っているところであります。新年度においても、両校で複式学級が生じる見込みであり、前年に引き続き非常勤講師を配置することとしております。なお、県教育委員会に対しては県費負担教職員及び講師の配置について、強く要望してまいりたいと考えております。

「全国学力・学習状況調査」につきましては、23年度も前年度に引き続き抽出校調査方式が継続され、現時点では市内全中学校と角館、白岩、桧木内の各小学校、計8校が対象候補校として通知を受け、諸準備を進めているところでございます。なお、抽出対象以外の学校においても、問題用紙の送付を申し出て、調査の結果を日常の学習活動に活用してまいることとしております。

学校給食事業につきましては、市内3センターの給食費の額を22年度から統一しておりますが、調理・運搬業務の委託については、角館給食センターのみにとどまっていたところであり、23年度からは、田沢湖、西木の両センターにおいても委託を行い、市としてセンター業務の統一を図ることとしております。なお、年間を通した給食業務の流れや事務引き継ぎに必要な期間等を考慮し、学校が夏季休業中である8月1日を目途に、業務委託を開始できるよう、民間事業者との契約締結に向けて準備を進めてまいります。

市立幼稚園につきましては、これまで田沢幼稚園で3歳児の入園受け入れを行ってりましたが、23年度からは、生保内、神代の両園においても新たに3歳児を受け入れることとし、所要の経費を計上しております。入園施設の選択肢を拡大して、保護者の要望に応えてまいりたいと考えております。

【生涯学習】

生涯学習においては、23年度は「仙北市社会教育中期計画（20年度～24年度）」の後半期として、計画をさらに加速して推し進めることとし、

「地域の連携の強化」「ふるさと学習の推進」「家庭教育の充実」を柱に芸術文化の振興を図り、市民の一体感の醸成にも取り組んでまいります。

新規事業としては、市内のアーティスト等がそのネットワークを活用して、自主的に市民を巻き込んで行う創作活動や発表・展示等のイベントの実施を支援して、地域の魅力発信や継続的な賑わいの創出を目指す「せんぼくアートプロジェクト推進事業」を実施することとしております。

また、各小学校区単位で実施している「放課後児童対策事業」については、新たに白岩地区において放課後児童クラブとして「かしわっこクラブ(仮称)」の開設を予定しているほか、各クラブともに開設時間を拡大・延長することとしており、利用者の利便性向上を図ってまいります。

【スポーツ振興】

スポーツの振興においては、市民の皆様に元気でいきいきとした生活を送っていただくために、世界的スポーツイベントとして、毎年5月の最終水曜日に行われる「チャレンジデー」に参加し、全市民が運動やスポーツを通じて健康への意識を高める契機としたいと考えております。

8月12日には、平成23年度全国高等学校総合体育大会自転車ロード競技が、「クニマスの故郷」を本市オリジナルのキャッチコピーとして、田沢湖周回特設コースで開催されることになっております。また本年度も、地域に根ざした住民主体の生涯スポーツの振興・普及を図ってまいるために、各中学校区ごとの総合型地域スポーツクラブの設立や運営支援に努めることとしております。

【公民館】

公民館においては、幅広い世代や各地域の要請に応えた学習機会の提供を念頭に、各種講座や教室等の充実を図ることとし、高齢者に役立つミニ講座の開催など、身近で気軽に参加していただけるような体制づくりに努め、参加者の一層の拡大を目指してまいります。

特に22年度には、秋田県生涯学習センターの指導により「みんなの力で

公民館をパワーアップするボランティア団体」として「角館公民館サポーターの会」が設立されたところであり、今後は、このような団体とも一層の連携を深め、公民館活動の推進を図ってまいります。

なお「角館公民大学陶芸学科」は、これまで勤労青少年ホーム敷地内のプレハブ小屋で活動しておりましたが、手狭で老朽化が著しいことから角館東地区公民館に活動拠点を移して専用の活動室を設けることとし、活動環境の向上を図ってまいります。

【学習資料館・新潮社記念文学館】

冒頭でも申し上げましたが、学習資料館では、田沢湖図書館、西木公民館と連携を図りながら、緊急雇用基金事業等を活用して、市内小中学校全校を対象とする学校図書館システム導入事業に着手いたします。これは公共図書館システムと連携した横断検索システムを構築し、相互の図書資料を学習の場で有効に活用していくための事業であり、学校図書館の活性化に向けた支援活動に力を注いでまいります。

新潮社記念文学館では、21年度から館内リニューアルに着手しておりますが、その一環として、佐藤義亮コーナーや郷土コーナーの常設展示パネルの充実を図ってまいります。23年度の企画展としては「千葉治平の田沢湖物語」を4月下旬から開催し、本市出身の直木賞作家、千葉治平氏（1921～1991）の文学の魅力とともに千葉氏が愛した田沢湖にまつわる資料を紹介いたします。さらに日本近代文学館の協力を得て、巡回展を開催することとしております。

【市民会館・田沢湖図書館】

市民会館では、本年度の自主事業として、22年度に引き続いて、「陸上自衛隊東北方面音楽隊コンサート」の開催を予定しております。また26回目となる「生保内節全国大会」については、実行委員会とともに内容の充実を図り、生保内節をはじめとする本市が誇

る民謡の数々の紹介と継承に努めるほか、地域文化活動育成事業として「たざわこ音楽祭」の開催を引き続き支援いたします。

田沢湖図書館では、学習資料館との連携を図りながら、図書館ネットワークシステムの構築と蔵書の充実に引き続き努めることとしており、住民に親しまれる図書館として、利用者の要望に応じてまいります。

【文化財】

武家屋敷群の新たな伝統的建造物（文化財）として一般公開している旧石黒（恵）家については、地域文化の伝承や研修の場として活用いただいておりますが、23年度も関係機関との連携を図りながら利活用の拡大に取り組んでまいります。

23年度の重要伝統的建造物群保存地区保存事業は、河原田家文庫蔵屋根と青柳家薬医門等の修理助成を予定しております。

秋田藩角館郷校「弘道書院」復元計画については、22年度の基本構想策定を受け、23年度は検討委員会を立ち上げ、所見に基づく復元及び具体的な利活用について、その方向性を取りまとめることにしております。

仙北市の花「桜」については、22年度は市内全域の桜調査を行っておりますが、これをもとに新たなビューポイントとして、田沢湖高原高野地区や西木町かたまえ山森林公園、さらには桧木内川堤右岸地区の桜整枝作業等に取り組むことにしております。

【角館町平福記念美術館】

平福記念美術館では、23年度に6回の企画展開催を予定しておりますが、10月には、樺細工伝承館、新潮社記念文学館との合同企画3年目の事業として、芹沢銈介氏（1895～1984）の特別展の開催を予定しております。芹沢氏は、型絵染の重要無形文化財保持者（人間国宝）として名を馳せるとともに、角館の樺細工の振興にもご尽力をいただいた方ではありますが、美術館においては、主として屏風、着物等の大型の作品展示を行う予定でございます。

美術館では、今後もより多くの皆様から気軽に芸術作品を鑑賞していただけるよう創意工夫に努めてまいります。

以上、教育行政方針について申し上げましたが、本定例会に提案しております教育関係議案につきましても慎重ご審議のうえ、ご可決賜りますようお願い申し上げます。